

# 嵯峨宮頼り

第37号

嵯峨宮：群馬県みどり市大間々町小平 348 番地

<http://www17.plala.or.jp/sagagu/>

発行日：2024 年 9 月 吉日

発行：嵯峨宮世話人会



秋季大祭を左記日程で行います。お誘い合わせの上お出かけください。

十月十四日(月) 午後5時～  
十五日(火) 午前中

折の内經由鳴神山産廃投棄問題  
逮捕の県外業者二人 不起訴

前橋地検桐生支部

七月二十七日の新聞に小平折ノ内から山を越え鳴神山に入り、保安林に産廃投棄し二回も逮捕された茨木県の業者が、前橋地検桐生支部で不起訴になったとあった。しかもその理由には明かされないと。昨年十二月から四月に逮捕されるまで、荷台を高くし車体に会社名も番号も表示せず、特殊なフロントガラ

スで運転者の顔も見えない産廃ダンブが、朝四時半頃から轟音を響かせてピーク時は一日数十台も上った。林道は穴ボコだらけになり、二つの谷が廃棄物で埋まった。幸い台風十号は東毛地区に豪雨をもたらさず熱海のような盛り土崩壊事故は起きなかつたが、集中豪雨が何時あつてもおかしくない昨今の気象、枕を高くして寝られる状況ではない。行政処分命令に従わず廃棄物は未だ放置したまま、どこかへ搬出する気配は全くない。結局捨てた者勝ち、業者は罪に問われず、地元は道路を壊され産廃の捨てられ損

20240727  
上毛

地検桐生支部

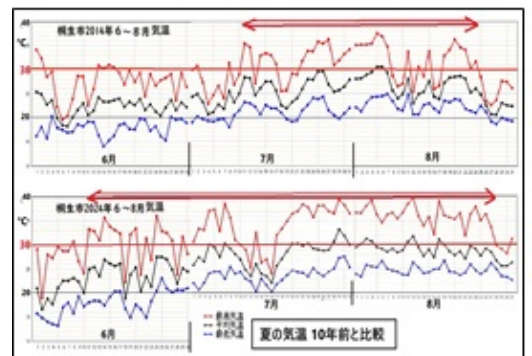
桐生、みどり両市にまたがる鳴神山の保安林に許可なく大量の土砂を搬入したなどとして、森林法違反容疑で逮捕、送検されていた茨城県の54歳と46歳の男性について、前橋地検桐生支部は26日、不起訴処分にした。理由は明らかではない。県警は男性2人を同容疑で2回逮捕していた。

だ。地検も公務員、我々の税金で成り立つ。裁判にかげられなければ不法投棄の構造も明らかにならぬ。不起訴にすることは産廃構造そのものを闇としておくことで、業者は安心して不法投棄し続けられることになる。テレビドラマでは政治家や高官が業者と癒着し巨額の金が動き、検察や警察に圧力をかけ、ヒーローがこれを暴くストーリーとなるのだが・・・。

暑すぎる今年の夏

高齢者には殺人的

令和六年の夏は異次元の暑さだった。里山の小平ですらエアコン無くして過ごせなかった。十年前と比較した気象庁の温度データ(桐生市)を示す。最高気温が30度以上の期間が2014年では概45日、今年は概78日で7割も長い。又最高温度も概38度と3度上昇、今年は



梅雨の六月から高温なのが特徴的だ。

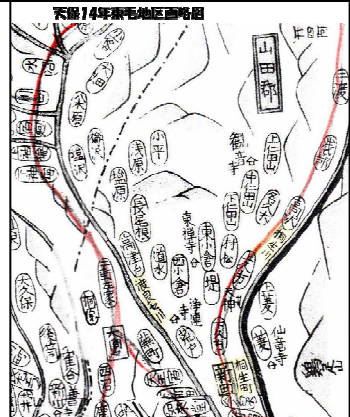
熱中症死亡高齢者の9割がエアコンを使用せず、そして認知症を発症していたという。昭和という激動の時代を頑張り我慢し生き抜いた人達だ。体のセンサーが多少ずれても精神力でカバーできると頑張ったのが裏目に出たという事か。異次元の環境下では経験値も最悪の選択肢に成り得るといふ事か。センサー感度が落ちたら感度の良い若い人の言う事を聴くことである。

# 仁田山八郷

山田郡誌の小平創生記述  
でその時代の地域を見る。

小平こへら 里俗の説に昔嘉暦の際武士七名あり、北條高時の亂を避け、この地に匿れ遂に①村落をなし、名を小平村といふ。七名は中曾根紺石衛門・磯田藤十郎・細金日向・東林房・高森信濃谷大掾・林伊賀皆その何許の人たるを知らず、蓋し官軍に屬せし者ならん②。後村落衰廢す③。天正十八庚寅年に至り故に復すといふ。郡村誌 山田郡誌

①嘉暦(1326-9)は鎌倉末期で南北朝への過渡期である。塩沢にこの時代の仏像がある。木彫虚空蔵菩薩坐像、胎内には「上野園田須永穴原村内 延文三年(1368)」の文字が見える。穴原は現在の大間々町塩原の一部、須永は桐生市川内町三丁目で当時は園田庄の須永御厨(みくりや)があり、穴原はその支配域内にあった。角塔婆は浄土教系の信仰の影響により造られた塔婆で、頭部は四角錐、その下部に二条線が刻まれた凝灰岩の石塔である。こ



れは鎌倉御家人園田氏が所領とした太田市毛里田地区の園田御厨と須永御厨だけに見られ、小平・塩原・高津戸にもあることから渡良瀬川東岸は園田御厨の範囲内であった様だ。②後村落衰廢すの時期はいつか。彼ら武士は官軍であり南北朝時代は南朝方だった。足利方北朝に敗れた後は觀応の擾乱に見られる肅清があり、小平も故に復したと思われる。高津戸の森家の井戸からこの時代の板碑が大量発見された事がそれを裏付ける。莊園も分割され室町中期には御厨としての実体は失われていった。室町時代、京では十三代

將軍足利義輝の小侍従が「にたやまつむぎ 拾ひき」と袖を彦部雅樂頭に頼む文書があり、仁田山の名前が知れ渡っていたようだ。戦国時代は土地を遣り取りする書状が多く残っている。金山城の由良成繁は天正二年(1574)一月山同主税介に所領宛行(あてがひ)を行う。「連々忠信忝候 仍而仁田山郷之内 後東寺三貫文地 充置候」後東寺は小平谷田の山同一家墓所である。黒川谷の合戦で活躍した阿久沢氏が後北条氏から貰った宛行に「仁田山の内 しほ原 あな原 小平 しほ沢 たかつと 天正十二年(1585)」とある。旧福岡地区が仁田山郷内だった証だ。③天正十八(1593)庚寅年に至り故に復すは、秀吉が小田原を討征、全国統一し、家康が関東に入府した年である。慶長三年(1598)の検地で、桐生領惣水辻改には村名と永高が記され仁田山八郷の記載もある。



「仁田山八郷之内 東小倉村、西小倉村、須永村、下仁田山村、中仁田山村、上仁田山村、名久木村、高津戸村、鹽原村、鹽澤村、小平村、須永之内 長尾根村 往古八神梅組卜申候 浅原村」浅原村以外の旧福岡村は仁田山郷であった。浅原村には朝原式部少輔という新田衆山上一族の人が居り、当時仁田山郷支配の桐生衆と敵対、その後神梅城主系統の阿久沢一族が浅原村へ進出したためと言われる。長尾根村は須永村の枝郷的存在である。小平では川内に親戚を持つ家が多く徒歩で山越し行き来した。車社会になり縁が薄くなったとしたら

残念である。「小平七百年祭」は中止にしました。

2026年度に開催予定の小平七百年祭は、実行委員会設立会議において反対意見があり、このままの形態で推進することは難しいと判断し中止と致しました。これまでご相談し準備にご協力頂きました関係各位には深く感謝し、又お詫び申し上げます。 世話人会総代

暑い昼間は避け涼しい早朝に活動しようとして、朝顔のすがすがしさに足を止める。人も蜂も同じ生き物である。(阿直)

